

「郡山市ともにあゆむ・ともに生きる

～認知症になってもよりよく暮らしていくために～」発行について

1 目的

本市は、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、認知症施策総合戦略（新オレンジプラン）（厚生労働省平成27年1月制定）の7つの柱に沿って、各種認知症施策を実施しています。

平成29年度より重点的に7つの柱のひとつである「Ⅶ認知症の人やご家族の視点の重視」について、認知症の人の視点を重視した支援体制構築の推進のために取り組んでいます。

認知症の診断を受けた方や初期段階の方が、必要な支援につなげていない「空白の期間」の解消を図り、早期診断から早期の支援へ円滑につながる地域での支援体制の構築を推進するため、「郡山市ともにあゆむ・ともに生きる～認知症になってもよりよく暮らしていくために～」を発行しました。

※空白の期間とは、

- 認知症診断直後や認知症初期は、介護保険サービス等現在あるサービスには適していないため、利用できるサービスが少ない。
- この時期に「ちょっとした支援」をすることにより、本来持っている本人の力を引き出し、生活状態の悪化を防止し、自分なりの生活を維持することが可能である。
- 「空白の期間」の解消は、本人・家族、そして地域全体によって重要課題である。

2 冊子の内容について

- (1) 認知症と診断された方が自身の不安な気持ちを軽減します。
- (2) 本冊子を通して、認知症の周知啓発を図り、本人の思いを周知します。
- (3) 本冊子を通して、地域で認知症の本人の視点を重視した支援体制構築について考えるきっかけになります。

3 配布対象者 認知症の方、認知症と疑われる方、認知症かもしれないと思っている方

4 配布方法について

- (1) 認知症疾患医療センターにて認知症と診断された方に配布します。
- (2) 認知症初期集中支援チームが支援対象者に配布します。
- (3) 高齢者あんしんセンター職員が認知症の相談・対応した際に本人に配布します。

※配布する際は、本人の心情・心理をできる限り理解し、不安の軽減を図るなど心理的支援をするよう努めます。

5 形態（仕様）について

- サイズ：A4サイズ
- ページ数：24ページ
- 全ページカラー印刷
- 表紙第3のポケットに別冊「よりよい日々のためにわたしの手帳」を添付する。

6 制作協力について

認知症介護研究・研修東京センター 研究部長 永田久美子
一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ